生態系・生物多様性遺産（動物）

南アルプスの動物

南アルプスの山々には、豊かな森林に育まれて数多くの動物が生息しています。ほ乳類は、カモシカを始め、ツキノワグマ、キツネ、テン、ホンドオコジョ、ニホンリス、ノウサギなど多くの種類が生息していて、ニホンザルやイノシシ、ニホンジカも多数生息していることが確認されています。また、ほ乳類以外では、ライチョウ、イワヒバリ、ホシガラスなどの鳥類、ミヤマシロチョウ、クモマツマキチョウ、タカネキマダラセセリなどの高山性昆虫類をよく見かけます。生息している動物の中では、カモシカとライチョウが、国の特別天然記念物に指定されています。

氷河期の遺存種で、厳しい冬でも山を下りることなく、一生涯を高山帯で過ごします。捕食や温暖化による生息数の減少が心配されます。

北岳山頂付近でのライチョウ

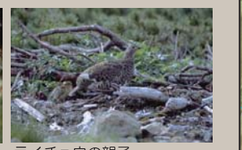
高山の代表種、ライチョウ

ライチョウは、キタダケソウやチョウノスケソウなどの植物と一緒に、氷河時代に北極地域からやってきて高山地域に残った「氷河期の遺存種」です。北アルプスと南アルプスのハイマツ帯を生息域としており、気候の厳しい冬でも高山帯から下りることなく過ごしています。そして、南アルプス南部の光岳やイザルヶ岳の生息地が、日本の南限となっています。日本に生息するライチョウは固有亜種ですが、種としてのライチョウは広く分布しており、南アルプスに生息するライチョウは、世界の南限ともなっています。近年個体数が減少しているといわれており、その他の動物や、地球の温暖化による影響が懸念されています。

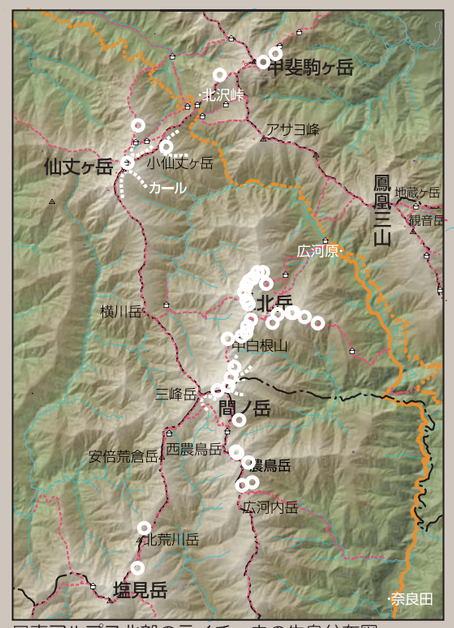
○1985年の調査で確認された個体数
小太郎山ー北岳山荘：オス31羽、メス８羽
北岳山荘ー農鳥小屋：オス23羽、メス４羽
農鳥小屋ー大籠山　：オス35羽、メス４羽

３羽のライチョウ、絶滅したといわれていた薬師岳で2008年１月、生息が確認された。

矮性のハイマツの中に残る巣立ちの跡（北岳山荘付近）



ライチョウの親子（７月中旬、ボーコン沢の頭）



□南アルプス北部のライチョウの生息分布図

南限の種、ホンドオコジョ

ホンドオコジョは、イタチ科に属する肉食動物で、南アルプスの主として亜高山帯～高山帯に生息しますが、前衛の標高1,500mくらいの山でも見られることがあります。ガレ場では岩の隙間を好み、主としてネズミなどの小動物や昆虫などを餌にしていますが、ライチョウのヒナの天敵にもなります。あまり人を恐れず、登山者の足元に出てくることもあります。南アルプス周辺が、この動物の生息の南限になっています。

夏毛のホンドオコジョ（北岳山荘付近にて）

冬毛のホンドオコジョ（撮影：佐藤元一）

その他の南アルプスの希少な動物たち

アズミトガリネズミ（撮影：三宅隆）
本州中部の亜高山帯～高山帯に分布が限定、南アルプスが分布の南限。

イヌワシ
南アルプスにおける生態系ピラミッドの頂点となる捕食者、南アルプスの自然の豊かさを象徴する種。

アカイシサンショウウオ
静岡県と長野県の南アルプス南部のみに知られている日本固有種。

ヤマトイワナ
南アルプスから流れ出る河川の源流域に生息、移入亜種の遺伝子汚染が懸念。

アマゴ
河川の上流域に生息、移入亜種や同種放流個体の遺伝子汚染が懸念。

テカリダケフキバッタ（撮影：小林正明）
光岳付近でしか確認されていない南アルプス固有種。

クモマツマキチョウ南アルプス八ヶ岳連峰亜種（撮影：有本実）
南アルプスと八ヶ岳にのみ生息する高山チョウ。

タカネキマダラセセリ南アルプス亜種
南アルプスにのみ生息する高山チョウ。

ミヤマシロチョウ（撮影：中村寛志）
本州中部にのみ生息する高山チョウ、南アルプスが分布の南限。

高山地域に出没するニホンジカなどが与える影響

最近、里山地域や奥多摩・丹沢など低山地域にニホンジカやニホンザル、イノシシが出没し、農作物や森林に深刻な食害が及んでいます。南アルプスにおいても、本来「落葉広葉樹林帯より上には餌がないために上がってこない」とされていたニホンジカや、ニホンザルが高山帯に出没し、高山地域の生態系に深刻な影響を及ぼしていることが明らかになってきました。

これらの野生動物の高標高域への侵入は、高山植物への被害、踏み込みによる土砂流出、裸地化、ライチョウなどの希少種に対する影響などの深刻な問題を抱えています。

ニホンザルの高標高域への侵入
採餌しているニホンザルの周囲には花がほとんどない。

□南アルプス北部のニホンザルの行動地図
「2007年、野生鳥獣目撃アンケート集計結果より」南アルプス市立南アルプス芦安山岳館

ニホンジカは、10頭以上の群れで行動し、昼間は身を隠す場所が近くにあるダケカンバ帯とハイマツ帯の境界付近で行動しています。夜になると3,000mの稜線付近まで上ってきて、高山植物を食べているのが目撃されています。最も深刻な食害の影響を受けているのが、ダケカンバ帯とハイマツ帯の境界に分布する高茎草原で、聖平、三伏峠、農鳥小屋周辺、北岳の草滑りではシナノキンバイの群落が消失・衰退しています。

中白根東側斜面の高茎草地で採餌するニホンジカ

2007年に南アルプス北部山域で行われた「野生鳥獣目撃アンケート」の集計によると、左の図に示したように、ニホンザルは６月下旬に白根御池小屋付近で目撃された後、目を追うごとに稜線を登っています。そして、夏の間はそのまま稜線周辺で過ごし、寒気が厳しくなり高山植物が消失し始める８月下旬には、草滑りまで下りてくるという行動をしていることが分かりました。

北岳・小太郎尾根西側斜面のニホンジカとニホンザルによる食害跡（2007年８月）